

## アナログプレイヤーの比較試聴(5)

### ーモーツアルトを聴く(5)ー

#### 1. 始めに

前報(4)に引き続き、アナログプレイヤー3機種と比較試聴を実施していきます。

#### 2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種の試聴経路は前報(1)と同様です。

音源は、モーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も弦楽四重奏です。

DENON OF-7037-NC

モーツアルト 弦楽四重奏曲第17番変ロ長調「狩」

弦楽四重奏曲第15ニ短調

スメタナ弦楽四重奏団

#### 3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

今回は前報(4)と同じモーツアルトの中期と後期の弦楽四重奏曲で前報(4)と同じスメタナ弦楽四重奏団の演奏の1982年プラハ芸術の森でのPCM録音です。

ZANDEN Model120 経由のLINN LP-12 と Grrad401 では、Columbia、逆相、第4時定数 High で聴いていきます。

ThorenTD124 の再生では、前報(4)より10年後の録音とあって、さらにPCM録音の音の固さがほぐれ、アナログらしい艶も感じられます。

LINN LP-12 の再生では、前報(4)より10年後の録音とあって、倍音の伸びもよくなっており、ディテールの再現や弦の艶も向上しています。

Grrad401 の再生では、LINN LP-12 に近い再生音ですが、少し肌理の細かさで劣るもののディテールの再現や弦の艶も確保されています。

#### 4. まとめ

3機種3様の再生パフォーマンスが確認できましたが、前報(4)より10年後の録音とあって、よりアナログらしい再生音になっています。

以上